

# 第107回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー・

## 修習技術者支援セミナー(愛媛)

四国本部 事業委員会 委員

増田 信

MASUDA MAKOTO



### 1. セミナーの概要

2025年12月5日(金)に、松山市「松山市男女共同参画推進センターCOMS」において、第107回CPDセミナー・公開講座・防災セミナー・修習技術者支援セミナーおよび懇親会・忘年会を開催いたしました。翌日の12月6日(土)は、「国道196号 今治道路」の工事現場の見学会を実施しました。

表1 プログラム

#### 1. 開会挨拶(13:00~13:10)

(公社) 日本技術士会四国本部

本部長 天羽 誠二

#### 2. CPDセミナー(13:10~14:10)

演題:『これからの流域治水～災害に強いまちづくり～』

講師:愛媛大学 工学部長

教授 森脇 亮氏

#### 3. 公開講座(14:20~15:20)

演題:『夏目漱石「坊っちゃん」の秘密ー虚子の手入れ、子規への思いー』

講師:松山坊っちゃん会会長・

愛媛大学名誉教授 佐藤 栄作氏

#### 4. 防災セミナー(15:30~16:30)

演題:『災害は“災い”が“害”になると書く』

講師:愛媛大学大学院 地域レジリエンス学環

客員教授 越智 正昭氏

#### 5. 修習技術者支援セミナー(16:40~17:10)

演題:『最近の技術士試験と修習のあり方』

講師:日本技術士会四国本部 修習委員

井上 博喜

#### 6. 懇親会・忘年会(18:00~20:00)

(1)開会挨拶 四国本部 広報委員長 岩佐 隆

(2)乾杯 四国本部 副本部長 富士 達雄

(3)中締め 四国本部 幹事 吉村 和司

閉会 四国本部 事業副委員長 正岡 久典

セミナー会場参加 40名(Web参加 5名)・懇親会 26名のご参加を頂きました。



写真1 セミナー会場の様子

#### 2. CPD セミナー 森脇 亮氏

CPDセミナーでは、森脇教授から「これからの流域治水～災害に強いまちづくり～」と題して講演をいただきました。

地球の表面温度の温暖化によって日本では激しい雨が増えてきている。愛媛県では平成30年7月豪雨による肱川流域における被災状況から野村地区の洪水氾濫シミュレーションを作成し、スマートフォンでの「逃げ遅れゼロアプリ」を開発し地域の避難訓練に活用されている。このアプリの改訂版として自治体、民間企業と連携して「みんなの防災アプリ」が開発された。将来予測される気候変動の影響で降水量の増大、海面水位の上昇

などを考慮すると現行の治水計画では実質的な安全度が確保できない恐れがあり、気候変動の影響を考慮した治水計画が必要であると報告された。

気候変動の時代に必要とされる「流域治水」は①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧、復興のための対策の三つの観点が重要で国土交通省からも国・県・市等のレベルでの取り組みが示されているとのことである。愛媛県においても企業版・住民版の流域治水マニュアルが整備され、西予市の肱川の流域治水の取組として田んぼダムの実証実験が説明された。持続可能なレジリエント社会の構築を目指して西予市復興の基本理念が示され、愛媛大学としても地域レジリエンス学環を設置し、持続可能な地域づくりに貢献できる人材の育成に努めていることについてご説明頂きました。



写真2 森脇 亮氏の講演

### 3. 公開講座 佐藤 栄作氏

公開講座では、松山坊っちゃん会会長、愛媛大学名誉教授 佐藤 栄作 氏より、「夏目漱石『坊っちゃん』の秘密―虚子の手入れ、子規への思い―」についてご講演がありました。

2026 年は『坊っちゃん』が執筆・発表されて120 年になる記念の年ということだそうです。この『坊っちゃん』には、漱石の自筆原稿が残っているとのこと、原稿を読み解くと、まるで、書いている傍で見ているようにわかると説明された。そして、実は、一般に知られていないことがらがあり、これを「秘密」と言って6項目が示された。特に自筆原稿の加除訂正（推敲）部分を確認する

と、漱石とは異なる筆跡が見つかった（漱石が書いたとは考えられない癖のある字）ということである。漱石の書いた文を直したのは高浜虚子であると推論されている。『坊っちゃん』は、虚子に頼まれて『ホトトギス』に書いた作品であるとのことである。

また、『坊っちゃん』は、執筆の完了当時で既に3年半前に亡くなっている正岡子規に献じた作品ではないかとのことである。

松山出身の子規・虚子がいなければ『吾輩は猫である』も『坊っちゃん』も生まれていないとのことである。二つの作品は、ともに雑誌『ホトトギス』に発表されている。作家漱石誕生には、虚子のアシストが必須だったと言い、130 年前の松山の漱石の下宿（愚陀仏庵）での52 日間の子規との同居は、漱石の出発点であったと説明された。『坊っちゃん』は、まだまだ楽しめる作品であり、原稿の写真を載せた『直筆で読む「坊っちゃん」』（集英社新書ヴィジュアル版）が出版されているとの紹介があった。



写真3 佐藤 栄作氏の講演

### 4. 防災セミナー 越智 正昭氏

防災セミナーでは、愛媛大学大学院 地域レジリエンス学環 客員教授 越智 正昭 氏より、「災害とは“災い”が“害”になると書く」についてご講演がありました。

越智氏はNTT 技術局伝送部門で勤務され、その後気象情報提供会社（株）ハレックス）で社長を歴任され現職に至るIT 技術者です。現代は第4次産業革命（Industry4.0）の時代で様々なモノがネットワークに繋がり（IoT）、それを「AI」が制御することとなる。人間が機械を調整していた

ことをAIが機械を自動制御（ロボット）する時代である。その中で気象データはIoT、AI、ビッグデータのフロントランナーそのものである。あらゆる業務システムと制御システムに気象データが変数として使われる時代が近い将来にやってくると予測される。多様な気象データを高度利用し、産業活動の創出・活性化を目指す産学官の連携組織である気象ビジネス推進コンソーシアムを発足させたとのことである。気象データの活用は、インフォメーション提供からインテリジェンス提供となり、デジタルデータを活用した“予測可能”な経営モデルを実現することにある。

自然の脅威の奇襲攻撃をいかに防ぐか、災いが害にならないために何ができるかを熟慮する。災いは災害の引き金となる自然の脅威でこれにその地域特性（都市の脆弱性）である地形、土壌、開発によって害となる。地域の特徴ごとに「害」の形が異なる。災いを害にしないために街の脆弱性を可視化しリスク評価を行う。地域の特徴に応じた被害想定と監視の閾値を設定する。これらのコンサルティングを行う気象防災アナリストを育成した。防災気象サービスとして「防災さきもり@Railways」を鉄道会社に提供し運用されているとのことである。また、気象防災アナリストをいくつかの地方公共団体に派遣し、防災対策における気象情報利活用に携わったとのことである。

最後に「防災力の向上は、自然（地形や気象）に関心を持ってもらうことから」という言葉で締めくくられた。



写真4 越智 正昭氏の講演

## 5. 修習技術者支援セミナー 井上 博喜氏

修習技術者支援セミナーは、日本技術士会四国本部 修習委員の井上 博喜氏から「最近の技術士試験と修習のあり方」について講演がありました。

昭和32年の技術士法制定から現試験制度までの改正の経緯が説明され、各部門の登録者数が示された。

修習とは、技術士として大成するための基礎（GA強化とPC獲得）を獲得するために行われる自己研鑽の活動であると説明され、基本修習課題は1 専門技術能力、2 業務遂行能力、3 行動原則があり、これら3つの課題の獲得を日本技術士会は支援していく。専門技術能力（専門技術知識の理解と応用）では、達成基準として、優れた実線を支える、広く適用されている原則に関する高度な技術を理解し、応用することとされている。業務遂行能力（問題分析）では、達成基準として、複合的な問題を、必要に応じてデータ・情報技術を活用して定義し、調査し、分析することとする。また、業務遂行能力（エンジニアリング活動へのマネジメント）では、達成基準として、一つ、ないし複合的な活動について、その一部または全てのマネジメントを担うこととされている。業務遂行能力（コミュニケーションと協働）での達成基準は、あらゆる活動のプロセスで、複数メディアを用いて、幅広いステークホルダーと明確かつ包括的にコミュニケーションを行い、協働することである。業務遂行能力（リーダーシップ）での達成基準は、業務遂行にあたり、明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整しとりまとめることとある。行動原則（社会の保全）の達成基準は、複合的な活動について、予測可能な経済的、社会的、環境的影響を認識し、持続可能な成果の達成を目指すこととある。行動原則

（法律、規制、及び文化）の達成基準は、あらゆる活動のプロセスにおいて、法律、規制、文化的要件を満たし、公共の衛生と安全を守ることとある。行動原則（倫理）の達成基準は、倫理にかなった方法で活動を遂行することとある。行動原則（継続研鑽（CPD）と生涯教育）の達成基準は、CPD活動を行い、PCを維持・向上させ、新しい技術と絶えず変化し続ける仕事の性質に適応する能



力を高めることとある。

修習活動では、修習の目的をよく理解した上でレビューを行い、レビュー、計画、活動、評価・省察、の順、すなわち RPDC

(Review-Plan-Do-Check) のサイクルを継続的に実行すると説明された。

最後に、「正しい修習が目標を達成する」という言葉で締めくくられた。



写真 5 井上 博喜の講演

## 6. 懇親会・忘年会

公開講座・セミナー後、懇親会・忘年会が開催された。参加人数は、講師（2 名）を含めて総勢 28 名で、大いに盛り上がりました。

四国本部 岩佐広報委員長の開会挨拶、四国本部 富士副本部長の乾杯の音頭で始まり、約 2 時間の歓談の後、吉村幹事の中締め挨拶で閉会しました。



写真 6 懇親会開会挨拶



写真 7 中締めの挨拶

## 7. 現地見学会

翌日に現地見学会を実施しました。現地見学会は、国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所のご協力により「今治・小松自動車道の今治道路」の工事現場を同事務所の工務第二課 清水課長及び高須賀建設監督官に案内・説明をいただきました。参加人数は、総勢 13 名でした。

今治道路は、2025 年 3 月 23 日に発生した大規模林地火災の被害を受け、一部の道路のり面やトンネル坑口斜面にまで及んだため、今後の対策工等の説明を受けた。



写真 8. 参加者の集合写真